



●プロフィール

山野井 昇先生
生体物理医学者。1947年生。東京大学大学院医学系研究科助手を経て現在、一般財団法人未来医学財団理事長。40数年にわたり医療や健康、美容などの最先端研究に従事。著書に「生命の陰陽学」(IDP出版)「水素と電子の生命」(現代書林)「ケイ素の力」(秀和システム)「生き方の処方箋〜日野原重明/山野井昇他対談集」(河出書房新社)など20数冊。新技術未来戦略会議議長、日本マイナスイオン応用学会会長、一般社団法人未病システム学会名誉会員など多くの役職を兼務する。

第7回

水素は宇宙からの贈り物

古の宇宙で衝撃的なビッグバンが起こり、水素はその過程で誕生した。そのサイズは元素の中でも最小かつ最軽量で、今でも遍く宇宙に大量に存在している。

ところでこの水素は、今でもなぜ、地球上で生活する私たちの体内に厳然として存在しているのだろうか？その謎の理解は、宇宙から連なる太陽と地球誕生の起源から回想することができらるだろう。水すなわち水素は、宇宙からヒト細胞に至るまで、とても意味のある役割を担っていたのである。ここで面白い比率の不思議を紹介しよう。おおまかに言うと、まず水素元素は宇宙質量の約7割であると言われ、太陽の水素質量比も7割、地球表面の海洋割合も7割、そ

れに人体の水分含有率も7割、また細胞自身の水分も7割である。大宇宙から小細胞に至る水素(水)比率が、おむね7対3であることは単なる偶然なのか、私にはとても神秘的な感を拭えない。

そもそも水素は酸素と、2対1の割合で結合することで水が生成される。水素と酸素は程よく融和(水素結合)し、昔からの大切な友人で、2人はとくに酸化と還元の相対する作用を有することも知られている。生命は、水素を介して宇宙に直結して存在している。言わば水素は宇宙からの贈

り物でもある。しかし生命は単一の水素だけでは成り立たない。

宇宙誕生から最初に生みだされた水素であるが、やがて宇宙空間には新しい星の衝突などで新種の元素が作られ、鉄球である地球の誕生とともに、空や海には「生体の構成元素」の基となる多数の元素、すなわち酸素や炭素、窒素、そしてナトリウムやマグネシウム、さらに微量元素のケイ素や鉄、また亜鉛やチタン、銀、金、銅、マンガンなどの重たい元素が出揃っていくのである。(続く)

